

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立向山小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒440-0861

愛知県豊橋市向山西町5番地の1

E-mail : mukaiyama-e@toyohashi.ed.jp

Website : http://www.mukaiyama-e.toyohashi.ed.jp

児童生徒数：男子 188名 女子 160名 合計 338名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

環境保全から取り組んだESD学習を深めることで、児童の自主自律の精神、判断力、責任感を育み、「ひと」「もの」「こと」との関わりの中で、持続可能な社会を作る担い手を育てることができると考えて次の実践を行った。

① 自然の恵みに感謝

「梅とり、梅ジュース、梅干しづくり」

2年生と3年生が、校区内にある梅林公園へ出かけて梅とりを行った。その際、豊橋市役所職員の方々の協力をいただき、より安全に安心して活動することができた。後日、栄養教諭の指導のもと、大量の梅を使って、「梅ジュース」や「梅干し」を作った。また、試飲・試食を行ったことで、地域の自然への感謝の気持ちが高まった。子どもたちの表情は、みな笑顔であふれていた。



【収穫した梅で、梅ジュースをつくる児童】

② 向山大池の環境探検

4年生「総合的な学習」で、大池公園の調査活動を行った。インターネットや書籍を利用したり、現地調査をしたりして、大池の歴史や生息している生き物などについて調べた。調べ活動を通して、大池には外来種であるミシシippアカミガメが生息していることを知り、大池の環境について真剣に考えた。学習のまとめとして、一人一枚の「大池に関する新聞」や「外来種について呼びかけるチラシ」などを作成し発表した。



【大池の水質調査をする児童】

③ ハートフルフラワー運動

園芸委員会（児童会）が中心になって、一人一鉢の花（パンジー・ビオラ）を育てた。

登下校を見守ってくださる「子ども110番の家」や「子ども見まもり隊」の方、読み聞かせや図書館整備をしてくださる「図書ボランティア」の方など、日ごろ世話になっている地域の人たちに、大切に育てた花に手紙を添えてお贈りした。



【感謝の思いを込めて花を贈る児童】

④ 三世代ふれあい事業

校区自治会が音頭をとり「三世代ふれあい事業」を実施して27回目となる。お年寄りと子どもたちや地域のお父さん・お母さんが一緒に楽しむふれあいの場を設けることによって、連帯意識の高揚を図ること、また、子どもたちには「地域のよさ」や「思いやりと親切の心」を育てることを目的としている。

「ふれあいテーリング」と称して、校区老連・PTA・子ども会・消防団などの各種団体が趣向を凝らして開設したブースを、三世代が一緒になって回り、試食や遊びに興じる。



【校区の方とふれあう児童】

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<p>○「せいかつ」 啓林館</p>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの活動を各学年の教育課程に位置づけ、計画的に取り組むようにした。「向山大池の環境探検」のように、問題解決的な学習過程を取り入れ、地域の環境の問題点を見つけ、よりよい校区になる方法を考えるように指導計画を組んだ。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年の年間指導計画にESDに関連する単元を明記している。市の「特色ある学校づくり」に申請し、予算化している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

平成29年度の学校評価の結果を見ると、本校の児童は「地域・家庭での挨拶」の評価が保護者・教職員ともに評価があまり高くない。週のめあてに何度もとり上げたり、家庭や地域でも積極的に挨拶をするように呼びかけたりするなどの方策をとってきたが、肯定群にあまり変化が見られなかった。今後、ESDの取り組みにある「三世代ふれあい事業」や「ハートフルフラワー」などの活動を通して、地域の方と心の通った挨拶ができる取り組みを考えたい。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

学年通信や学校新聞、ホームページなどで、活動の様子・成果を保護者や地域の方に伝えている。また、地域の新聞に年1回「特色ある学校づくり」の紹介で本校のESDの活動を紹介する記事が掲載される。保護者や地域の方からユネスコスクールの活動を含め、学校の諸活動に対する理解は高まっていると感じる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

「三世代ふれあい事業」では、「ふれあいテーリング」と称して、校区自治会が中心となり、校区老連・PTA・子ども会・消防団などの各種団体が趣向を凝らして開設したブースを、三世代で楽しく回って試食やゲームに興じる。

1年生の「昔の遊びを教わる会」では、校区の老人クラブや更生保護女性会の方からけん玉やお手玉などの昔の遊びを一緒にしながら教わっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

今年度、ユネスコスクール豊橋大会のポスターセッションに児童が参加した。本校の取り組みを発表し、他校の取り組みを聞き交流を深めた。今後は、ホームページ等で情報発信を多くし、交流やネットワーク形成を考えたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

校区の梅林園で収穫した梅を使って、2年生の梅ジュースづくりや3年生の梅干しづくりの活動を通して、子どもたちは、校区の自然の恵みに感謝し、校区のよさを感じた。

「ハートフルフラワー」活動では、全校児童が一人一鉢のパンジーを苗から育て、図書館ボランティアの方や地域の見守り隊、110番の家の方に感謝の気持ちをこめて贈っている。そのため、地域・保護者との関係も大変協力的である。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

○自然の恵みに感謝

5月 向山梅林園での梅とり

6月 2年生梅ジュースづくり

3年生梅干しづくり

○6月 向山校区「三世代ふれあい事業」

○6月～10月 4年生 向山大池の環境調査

○12月 1年生 昔の遊びを教わる会

○12月～ ハートフルフラワー

一人一鉢運動